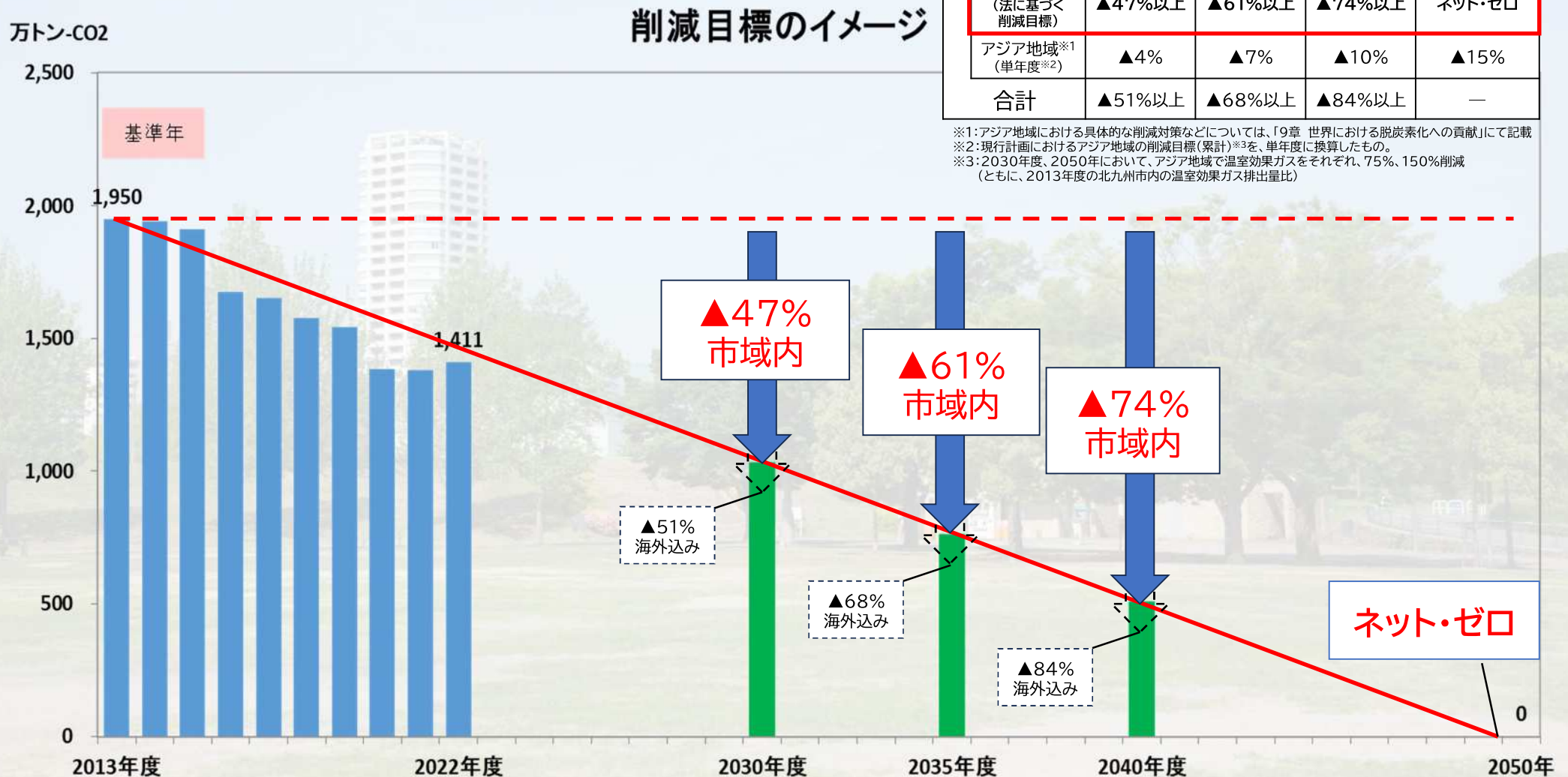


第4章 温室効果ガスの削減目標

※詳細な内容はこちら

2050年の目指すべき姿(ゴール)を、「市内の温室効果ガス排出の実質ゼロ(ネット・ゼロ)を目指す(ゼロカーボンシティ)」と設定するとともに、その実現に向けた具体的な削減対策と効果を積み上げ、2030年度・2035年度・2040年度の削減目標(ターゲット)を設定します。また、市域内において国と同等以上の削減目標を目指しつつ、アジア地域において削減した温室効果ガス排出量(海外での温室効果ガス削減貢献)を合わせ、世界の脱炭素化にも貢献します。



第5章 2050年に目指す脱炭素社会

※詳細な内容はこちら

1. 2050年のゼロカーボンシティに向けた取組の方向性

地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量をゼロにするためには、家庭や学校、運輸、事業所など、日常生活や産業といった社会経済活動のあらゆる場面での脱炭素化が必要です。

現在の人間の活動は、使用する(燃やすなど)ことで多くのCO₂を排出する石油や石炭、天然ガスといった化石燃料の利用に重点が置かれていますが、そういった化石燃料に依存する現在の状況を、温室効果ガスを排出しない方法に変えていく必要があります。

そのため、あらゆる分野で必要な電気・熱などのエネルギーや、車やバス・トラックなどの人間やモノが移動する際に発生するCO₂を削減するために、次に示すような方向性で取り組みます。

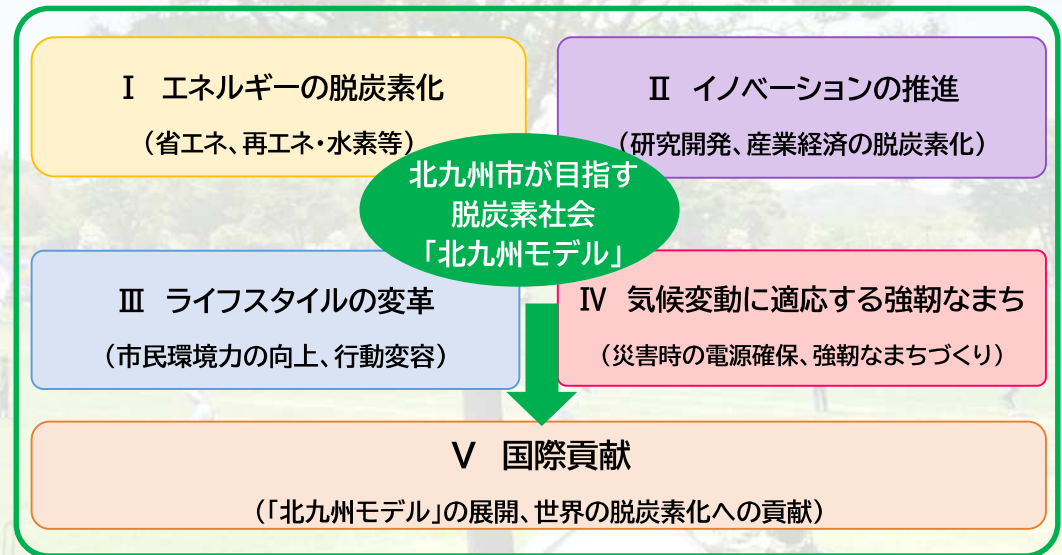


まずは「徹底した省エネ」に取り組むとともに、「電力部門の脱炭素化」と「非電力部門の電化」を進めつつ、電化が困難な分野においては「水素等の供給・利活用」を推進する



2. 北九州市が目指す2050年の脱炭素社会 (ゼロカーボンシティ)

脱炭素化することが、社会経済活動を縮小したり生活が不便となったりするのではなく、「社会をアップデートし、生活の質を向上することにつながる」という認識と方向性を社会全体で共有するとともに、下記「I ~ IV」を同時実現する北九州モデルを構築し、国外にも展開することで「V 国際貢献」するという方向性で、2050年の脱炭素社会を目指すこととします。



環境と経済の好循環による脱炭素化を軸に、都市や企業の価値・競争力を高め、快適で災害にも強く、誰もが暮らしやすい社会を目指す



洋上風力発電

ゼロエミッション船

スマート水産

海藻類による
CO₂固定化
(ブルーカーボン)

水素・アンモニア発電

ゼロエミッション飛行機

CO₂海底圧入船

水素コンビナート

水素製造

ワーケーション

水素還元や電炉による製鉄

CO₂回収プラント

水素製造・貯蔵

洪水・高潮に
強い堤防

バイオマス発電

AI・オンライン化

PV+次世代蓄電池

遠隔医療

風力発電関連産業

メタネーション・
人工光合成

ZEB
(ネット・ゼロ・
エネルギー・ビル)

BEMS
(ビルエネルギー
マネジメントシステム)

AR-VR

自転車・徒歩

メガソーラー

バイオ素材生産

VPP
(バーチャル
パワープラント)

水素ステーション

MaaS
(マース)

コンパクトシティ

スマート農業

自動運転

次世代自動車
(燃料電池自動車
電気自動車)

EVステーション

データセンター

再エネ100%電力化

ZEH
(ネット・ゼロ・
エネルギー・ハウス)

シェアリング・
サブスクリプション

BRT
(バス・ラビット・トランジット)

防災拠点
(自立電源)

サーキュラー・エコノミー

HEMS
(ホームエネルギー
マネジメントシステム)

テレワーク

ドローン

2050年のゼロカーボンシティのイメージ